

3人の方に
聞きました

大田区の「男女共同参画推進プラン」って何ですか？



人は誰でも等しく尊重される権利があります。「男女共同参画」とは、男女の差なく、個性と能力を各自が発揮できる機会が均等に与えられるような新しい社会のあり方を、社会の一員として共に作っていく責任があるという考えなのです。

この考えは、国が1999年に施行した「男女共同参画社会基本法」に基づくもので、大田区も男女共同参画の推進のために数年ごとに行動計画（以下プラン）を作っています。

今年、大田区は6回目となる男女共同参画推進プラン改定を行いました。

「ちょっと待って。そもそも男女共同参画とかプランといわれてもよく判らない」と思う方も多いでしょう。そこで、新プランについて関わりの深い3人の方に聞いてみました。

最初に登場するのは、旧プランの検証と新プラン策定の双方に関わった区民会議の前会長・早稲田大学教授の大久保孝治さんです。

区民会議の仕事って？

男女共同参画のプランを作るのは行政の仕事です。プランの進捗状況のチェック機構として区民の代表からなる区民会議があります。私が務めた会長職は双方のまとめ役というところです。

社会学から見る男女共同参画とは？

男女共同参画の反対は性別役割分業です。近代社会はこの性別役割分業のシステムでやってきました。それも対等の分業ではなく、内と外の分業、上と下の分業でした。現代社会はこのシステムが問い直されています。

学校は男女平等がいちばん進んでいる場でしょう。90年代以降に生まれた今の大学生たちが社会に出て目上の人たちの下で働くとき、男女の差別にあらためて気づくかもしれません。変わらなくてはいけないのは彼等の上司たちの世代です。



大久保さん
早稲田大学文学部文学専攻教授。社会学。自分の人生を人がどう語るかというライフ・ストーリーに関する研究が専門。

「男だ、女だ」というアイデンティティーを持つと行動がしやすいと同時に窮屈でもある。自分のアイデンティティーを捨てることは不可能だし、変える必要もありません。もし、自分が女であることで生きづらさを感じる瞬間があれば、少し距離を置いてみれば楽になることもあるはずですよ。

私個人の問題でいえば、職場では女性教員をもっと増やすこと、家庭では家事を妻まかせにしないことですね。

新プランの注目点は？

重点課題を明確にしたこと、5年後にはこうなっているという数値目標を作ったことは新しい試みです。プラン

が目標を達成しているかを全体としてチェックするシステムがないと、せっかくのプランも絵に描いた餅で終わってしまいます。

今回からプランを立てた区が自己点検し、その結果を区民代表の区民会議がチェックする二段構えのシステムになったことは大きな変化です。

また、プランの下案作りをやっている職員会議との懇談、区長との懇談を区民会議の年間スケジュールの中に組み込んだことも大きかった。

今後の課題と期待は？

新しいチェック・システムがきちんと作動すること。区民会議の活動は区のホームページで紹介されていますが（議事録の公開）、内容をもっと詳しくかつ分かりやすくして、トップページなどの目に付きやすい場所に置いてほしいです。区民もそれを見て興味を持ってほしいと思います。